

# 「いのち」の教育実践事例

## ☆小国町の実践

(おぐに保育園・小国小学校・小国中学校)

生命の継承の  
大切さに  
関する教育

### － 保育園・小学校・中学校における「いのちの教育」 －

自らが生命を継承する主体であることを自覚できるよう、自他の生命の大切さや、地域社会とのつながりを意識した取組を、保・小・中の連携の中で行っている事例です。

#### ○ おぐに保育園の実践

- ・ 自ら畑に足を運んで植物の成長を喜んだり、オタマジャクシ等の世話を熱心に行ったりしました。栽培・飼育活動を通じて自分やみんなにいのちがあることを感じ取り、絵や言葉で表しています。
- ・ 年長児と保護者対象の食育教室では、地元農家との語らいを重視しています。栄養面に加え、自分のいのちはさまざまないのちをいただいてできていること、いのちはつながっていることについて、親子で感じ取る機会となっています。



#### ○ 小国小学校の実践

- ・ 「いのちの教育強化月間」を設け、食育、保健指導、道徳、学級活動などのクロスカリキュラムで、生命の大切さやつながりについて学びを深めています。
- ・ 4年生は、親から受け継いだ生命の尊さを感じ取り、自分と同じように大切な他者の存在を認め合うことを目標に、道徳「おばちゃん、がんばれ(生命の尊さ)」や、保健体育「育ちゆくからだと私」、総合的な学習「自分史を調べる」、学活「2年生と仲良く」に取り組みました。



#### ○ 小国中学校の実践

- ・ 2年生の「性といのちの学習」では、男女の心の違いや性差を理解することの大切さを学び、性交について考えました。子どもを産み、育て、生命をつなぐといういのちの営みの尊さや、自他の尊重について、意見交流を行いました。
- ・ 「白い森学習」では地域の歴史や文化について探究しました。文化伝承と生命継承の関連に気づき、自らが生命を継承する主体であることについて考えを広げました。

